

新潟民商

新潟民主商工会
新潟市沼垂西3丁目
電話 (243) 0141
20年11月 2日

ひとりの業者も取り残さない活動をー各支部で全会員訪問が取り組まれる

元会員訪問で2名読者増く山潟支部

山潟支部では10月20日、支部役員でもある菅原副会長と事務局員で様々なリストを基に会員・元読者・婦人部員未加入者・新規開業店などの訪問を行いました。

菅原副会長が全商連総会の成功と民商運動の大切さを力説。その中で快く理解を得て2名の読者が増。対話では「売上も所得も減だが、どの制度も対象にならない。行政は本当に市民の実態を親身に考えているのか疑問だ。」などの切実な声が出されました。



対話での実態を小まめに拾い集め大きな力にして運動に繋げる必要性を実感しました。この訪問行動を弾みに増勢を目指して継続した支部訪問を、参加者を増やしながらい行なう予定です。

国保減免相談者増えるく石山支部

10月21日(水)石山支部で訪問行動。支部役員6名が参加しました。対話の内容はコロナの影響や支援制度、共済会学習会の案内や全商連総会などで、2名ずつ3組に分かれて行動し、17名と対話しました。理容業のAさん。国保減免制度は知っていたものの詳細が分からず諦めかけていました。しかし詳細を聞き「該当するかどうか数字を出してみる」と国保減免にチャレンジすることに。看板業のBさんは「9月まで仕事が月1件。10月に入って仕事が出てくるようになった。国保の減免は知らなかったので申請したい」と、こちらでも申請にチャレンジすることとなりました。



仲間を増やす運動では「新聞4部くらいとってもらえそうだ」との声も。また伊藤支部長が電話がけを行い、商工新聞読者3名を増やしました。

日程

- ・ 民商共済会大腸がん検診実施 各支部の持参日
- ・ 拡大統一行動旬間 11月1日～15日
- ・ 全商連定期総会 11月15日(日)

会員同士の輪をなげろく駅前支部

10月23日に駅前支部で訪問対話行動を行いました。駅前支部役員の小池さん(飲食業)を先頭に会員・会外を11件訪問しました。

訪問先では駅前支部で毎月2回開催している相談会の案内をする。「コロナ禍で営業も厳しいし、国保も介護保険も高くて大変!時間をくって相談会に参加します。」という声や「この商売を続けていくのも大変な状況のなか、地域の仲間同士情報交換の場所をつかって欲しい」などの声が聞かれました。



駅前支部役員会では引き続きコロナ相談会や交流会を行い、商売を守る運動と同時に会員同士の交流の輪を広げていこうと話合っています。

国保減免の周知徹底は急務く白根支部

白根支部では10月19日と22日に訪問活動を行いました。両日とも夕方から訪問を始めて30件ほど訪問し、19日には8名、22日には5名の会員と対話することが出来ました。

訪問対話ではコロナ対策給付金(持続化、家賃支援)などが話題に。「売上40%減で残念ながら条件を満たさないために申請できない」などの声が多く、国の救援策がまだまだ行き届いていないことを実感しました。



また持続化給付金などテレビでCMしているものは周知されていますが、国保の減免などは会外の業者にも知られていません。会内で商工新聞とともにチラシで広めることと、市に減免制度を周知徹底させるように求めていくことが重要です。

訪問では他に婦人部アンケートの配布も同時に行いました。2回程度の訪問では、支部の会員の半分も訪問できておらず、継続して訪問計画をしています。

コロナ対策相談会各支部の取り組み

持続化給付金から緊急小口まで 役員中心に相談く木戸支部く

木戸支部は20日に東区プラザ講座室にてコロナ対策相談会を開催しました。支部役員2名が参加し相談者も2名参加しました。

2名共に持続化給付金の相談だったため、最初に昨年と今年の売上表を見比べて持続化給付金の対象になるかを確認。個人の青色申告の方は、前年同月比でみると11月が対象になりそうだということ、12月に申請することとなりました。そのために必要な書類の確認も行いました。もう一方は、白色申告のために令和元年の売上を12で割り月平均の売上を対象になるかを調べましたが、該当する月がありませんでした。

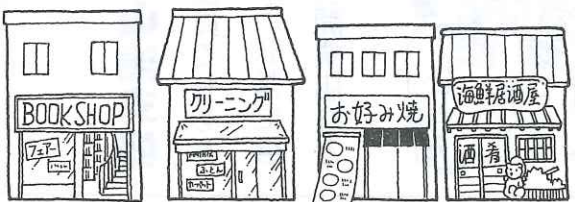


また緊急小口資金を申込み20万円の借り入れをしたAさん。緊急小口を借入した人に市が3万円を上乗せする給付金の申請用紙を取り寄せ、その場で作成しました。それを見た別の参加者からは、「いい制度だね。でも、緊急小口資金だと返済しなくちゃいけないしどうしようか」と悩んでいました。

定期開催が定着し参加者が増えてます く中地区(山ノ下・東山ノ下・東山ノ下・太平支部)く

山ノ下・東山ノ下・太平支部(中地区)の3支部は合同で23日にコロナ対策相談会を中地区コミセン会議室で開催しました。この相談会には東山ノ下支部から3名が参加しました。

いずれも持続化給付金の相談でしたが、まずは申請の対象となるか売上台帳を確認。すると該当する月があったので申請の際に必要な書類を確認し準備でき次第申請することとなりました。



その後、話題は民商共済会で実施する大腸がん検診にがんは早期発見・早期治療が大事とみんなで議論し、今年もみんな受診しようと呼びかけました。

商売や健康のことに話題が尽きない相談会でした。

松浜支部「若手のみの会」を開催 BBQから経営講座まで興味津々

松浜支部では10月24日に会員の店「居酒屋しんご」を会場に「若手のみの交流会」を開催し7名が参加しました。

この交流会は「どんな企画なら若手が集まるのか」を相談し合うことが狙いです。青年部の中村浩副部長を筆頭に今後の支部の企画について話し合われました。

中村副部長の「家族がいる人は家族優先になる。家族で参加できる企画がいいのでは?例えばバーベキューなどはいかがか」という意見から全員「バーベキュー」という案に賛成。「若手の家族を集めるなら子供が喜ぶような企画にした方がいい。それなら奥さんも来るはず。子どもが参加したくなるような仕掛けが必要」など積極的な意見が出し合われました。結局バーベキューは来年4月下旬の開催を目指し、打ち合わせのためにまた集まろうと決めました。



また、経営に関する事について学びたいという意見も出され、青年部で企画する「SWOT分析講座」を紹介すると興味津々に話を聞いていました。

婦人部三役が訪問行動に奮闘 南浜支部婦人部員7名と対話

婦人部三役の和合通子部長と渡辺みゆき副部長は10月16日、南浜支部の婦人部員へ訪問し7名の部員と対話。隣は聖籠町という太郎代方面を訪問し、婦人部アンケートと新型コロナの影響などについての聞き取りを行いました。

旅館を経営するAさんは「売上0の月が続いていたが持続化給付金でなんとか乗り切った。給付金の手続きが出来て民商に入っていて本当に良かった」と話しました。また営業にはあまり影響ないと言っていた部員も、会合など集まる事が出来ない事や県外の家族に会えない事などに困っているとの話を聞くことが出来ました。

